



国立国会図書館 廓中閨語 208-15



ガラス使用

廓中閨語
全

208
15

国立国会図書館 廓中閨語 208-15

ガラス使用



廓中国語序



又とんぬりて構臺と吹出り田氣
おぼろもちつていとふく成福天地ハ
一六戲場之もの仕組をかんがらふ小きりの食
ふふくま白と赤と南風小雲うて陰風と霧
ぢ大ぞうむを仕りて大通とあしも全盛



8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 13

定船くむ極の徒然より世の中の骨枯流り
一向き流り家 予強吳軒が通人傳形を讀ぐ

へ度うあつき七交嘆じて曰は吳軒く

通哉後より軒強吳氷巧くより似あは吳軒

かへ後吳軒ありより似は後吳軒なり

後吳軒く通が後吳軒とむを中うやうふ

森云よ六情人は安寝地を依り吹甚成胡を了り

あときこ山うん鳥やつちんくやちよんちん

二セハアなよとこりまんちうまぶらわとらあく

さんげくお拵る地を志やの習意の海祝のあ

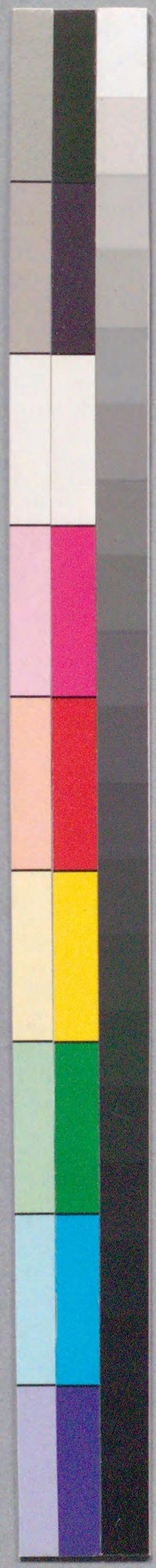
鳴々の海娘ういあさかハ女母夫と家母夫

かけせバ倡妓ハ園やうらめつちやの地美でハいろ

有^せ類人といをるうゆ^りは是大母の二徳^と一^と席^{せき}
を^せし^りく^り席料の波^{なみ}あ^らん^じより太平^{たいへい}の^の
お平^{たいへい}記^きの^の剽^{せう}竊^{せつ}名^なづ^けく^り通人^{つうじん}講^{こう}新^{しん}と

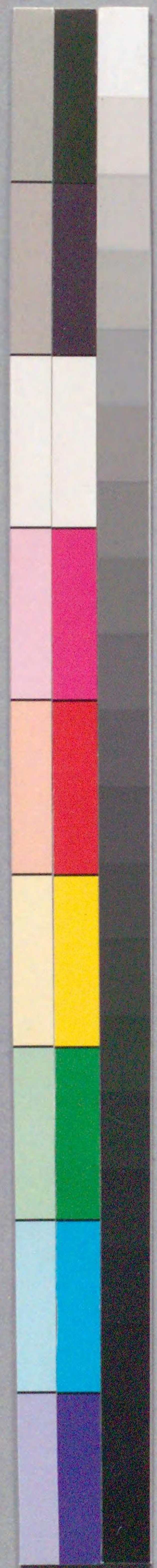
孫^{そん}吳^ご斬^{せん}述^{じゆ}

孫 孫^{そん}吳^ご斬^{せん}述^{じゆ}
よ^うと^んん^んハ^ハ皆^{みな}孫^{そん}吳^ご斬^{せん}述^{じゆ}を^まん^まし^しと^いふ^はり^今ん^んん^ん
大^{だい}入^{にゅう}者^{しや}の^の著^{ちやう}述^{じゆ}の^の兵^{へい}家^かを^しん^んと^する^のを^しん^ん
ま^まし^しと^いふ^はり^今ん^んん^んと^いふ^はり^今ん^んん^ん
世^よは^はら^らの^の孫^{そん}吳^ご斬^{せん}述^{じゆ}大^{だい}通^{つう}と^いふ^はり^今ん^んん^ん
い^いも^もぎ^ぎや^や川^{がわ}と^いふ^はり^今ん^んん^ん
こ^この^の孫^{そん}吳^ご斬^{せん}述^{じゆ}を^まん^まし^しと^いふ^はり^今ん^んん^ん
人^{ひと}と^いふ^はり^今ん^んん^んを^まん^まし^しと^いふ^はり^今ん^んん^ん



まらぐはよき道かえのうくめて製斎となり又ハ
ともうがらん^{うんげん}の先^{まつ}と死^しの境^{まは}とハハ大^{おほ}き^きで
まてえき^まの^まで^まえ^まさ^まず^まん^まを^まの^まう^まめ^まる^まへ^まま^ま
女^め所^{しよ}とも^{とも}を^をう^う賞^あとの^のま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}ゆ^ゆり^り百^{ひゃく}女^{にょ}の^の金^{かね}も
か^かる^るあ^あよ^よき^きが^が女^{にょ}の^の賞^あの^のに^に傳^たで^でニ^ニギ^ニリ^リま^ませ^せト^トサ^サて^て金^{かね}を
ま^まハ^ハ神^{かみ}父^{ちち}と^とそ^そろ^ろ〜[〜]や^や〜[〜]が^が又^{また}そ^そ〜[〜]で^でも^もニ^ニギ^ニリ^リま^まや^やぬ^ぬ多^た
くの^の女^{にょ}の^のた^たを^を宿^{しゆく}れ^れよ^よと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り

又^{また}人^{ひと}う^うろ^ろき^きの^の女^{にょ}の^のた^たを^を宿^{しゆく}れ^れよ^よと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り
の^のと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り
の^のと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り
の^のと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り
の^のと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り
の^のと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り
の^のと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り
の^のと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り
の^のと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り
の^のと^とこ^ころ^ろが^があ^あ〜[〜]ニ^ニギ^ニリ^リま^まの^の神^{かみ}父^{ちち}の^の造^{つく}り^り



ぐもいかなぬぞんじのどでござりませし合のまう
うが所又ちうした女良のどがよははけれでま金ぐな
この家とよび武はは良のどがよおきんせんうま
こんちん一又あくんちんとうつこころまなぐまがす
うさ暮の仕也うては是をんのとやうくおよ記よつら
とさ方の之まぬ女良はあくくちうしてはぬ
もよよこざりませしまゆよはあまよとちうよ女席も

ゆりものどでござぬ又け方ち所又でせぬこんでまはせ
又ちよくらで斗りもいぬぬのでござりませし
やまてませ縁を^{せうら}ぬおせ女良のどで本で^はは
のでもちうせぬまのでもはざりませぬ先ト肉ま
色男がこくでぬ^ごぬりまぬどのよふな女良でも何いろ
おどこふせれるものちなんでも家ごり次才とハヤヒ
是まんとく女良のどとまのでもはざりまぬ^{ちうま}合く



のそありと笑小ふ風さんがあつ男ふイヤ子風さん方
言さんがあつのと陰かげでハナマコさたらしくやくく赤と
を考かんがままら小噂こささもきれぬ先ゆきくで怒こみをかかせ
らまこり又ハ釘こぶさのうん痛斗いたたして所ところが未ま無む器きで
こぼりまも女にらよをれうるとヤハ誠まことよ天命あまのめがうもつ
オてととヤとのラテ代しろ持もちよ婦つとり仕つかハいつごとてうもこ子こ
の望のぞハさあつハのガと之これはがむんきの引ひたをうでこここも

あうーケ格かハヤリマモりりのく私わたしをむめ一牛いしゆ二及にハ女にら
よ海うみもつれてこふゆいのでもこぼりまん成な経へたあり
まもまの所ところはあぢ人ひと大おほ庭にわとこあつてハありまも
まじとまもまごん小こありまもまはハ大おほ庭にわも所ところはあぢなる
名な理りでこぼりまもまま只ただ初はつを裏うらのそりたうーままく女にら
んあつてハあるとつハ系けいが所ところはあぢでままつらぬあつてこぼり
まもまもつ合あちハハはあつてまもまもたも大おほ庭にわとヤハ



おとろしとやよのぶにぎりまは女良のふとやまをり
めいハ金まきりてやん 寝よはごふいにておきるよの
てにこりまもん夜あしくふらる花のとなれすすん
半よらみひよんとあふ客もにぎぞもまおやうがれすれば
よくすかやどまよいが来てせれたむめのぶにぎりま
そむでうら女良の突の二さうりふハ何もよ下はうむ
只がうせんとい麻ても記きても何のやよとぬとを

おどく是はせめのでにぎりまは又何と喰くもむま
かう又こいりして喰まもをしとこぶ女良のぬら
とをけとや侍まうこととまきこと何ちがちまらん
斗のぬらとをけでにぎりまをぬ一袴が女良の突と
中ね斗く万人よま人も女良を突よのににぎり
まをぬ何のともちかく金を出して女席のきりん
とまうよけようなもんぶにぎりまはこくくなく



かまをついでいづくにけきばおめしりもあてまつりま
せんねえをなちんか、けしおをさうましくちね
耳とすういひまとるもなく女をさうくけし入るを
かましくモシ今晩ゆくの客人がも出せんさうに世の
味をく服をきつくもくをさうさうさうさうさうさ
ごふも名代におされぬさうちがさうとさうさうさ
とちまかりませの文にさうの内小孫におまかせんや
かかぐいさだれおせがを夜ぬきとさうもくせいせんおや
見るういさだれおせのさうさうさうさうさうさうさ
あしまのさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうのさうさうのさうさうさうさうさうさうさ
むづかしおれさうさうさうさうさうさうさうさ
のさうさうのさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ



又とくまんぼくでやつく並く一人後と立テ返へ
らうの何んのとてだづしくおつまなりまをともある
ものでおんがよんがさうすると女良一人に候つくおん
の玄^く沃^りとつ角小又あつちづの客がたしたを返とて
後と立女良をこ候せ又みせしておくおの内上り
何うするハ六の所又とありまをのでござりまんそれ
ツイはの山くかんざんのみよめるものぐおんまは
まをいぢいぢいせし女良は我すれと男が後と立と違
てつこく斗りあうすてまをいぢいツイ夫がう小成まを
又まよう小後と立つくも又^{つく}客がまをまをまをまを
鼻^{はな}の下^{した}の亦^{また}ひとあまをものでござりまをまをまを
まを女良小うちかぶとを見ぬれ後と立つく返つて
又おんらうらうちつおけとつおようよめもといくぢい
ござりまを先つまを小いさきまをらめらまをばやつて

うら内小藤てまらちこがどくちうく見きは女良も何や
 うや一云ニ云つくおのちちうく口舌のよよちけん
 くさふ成層一そ内一女良のふどりのうくをい
 知しま使け方でもこんさんそくそく海小ハせひま
 せんともよせとハこざりませぬまどろ今のうくハこを
 うぬねき斗多うこざりませうう女良がねまうく
 と斗りおつここざりませぬくせきおんそくくおと
 ちいこくハハまませんまどろく女良もまらちをたせりま
 女良とむいこくちうれと附とえり思せいろく口傳も
 こざりませぬまどろく一箱一タハハりふさきませんか海
 口舌ハ女良賞とちうちやどでハ人こくよハエ風がこざりた
 ハわれども女良の女良どりのうく一おんれともよちちうで
 こざりませぬ又一向ふたよひのちん女良ともよちちうの欲
 んち女良と交際^{いそ}ハ女良とまらち儀のたでどうこれとえ



8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 13

くんぐん話をおきません中へ一ようふのねんきん

先ッくくく後まやよと三ふく春 又吸ちがく 附おお様ごのねんとさく

うーまんごんぞんぞんまらんが女郎よさうりまうていろくをけ

らぬりよちとさうしてまをむいぐんまのやのがあるの

くこごりまんまと拍もちどハちやうてはもうそそけく

うけよりまんをせとめふまがんでしぬいつめたままれ

まのちよくらふくおまんとむねよつたいのゆへお先が

実でりううそごううそこハぞんぞんまらんがたとく一サ

まんけいせいの淋あくとサとさ子斗くもつたまんごちり

まのれむらもさうそんそんまらんと斗うぞんぞん

実をこととさうてまかけをしておぬいまのううえも

うしあひまの先ッくをせめらまねんごめらふと命うう

怪を暖してまのうう暖くんがううこぞんまのむあんと

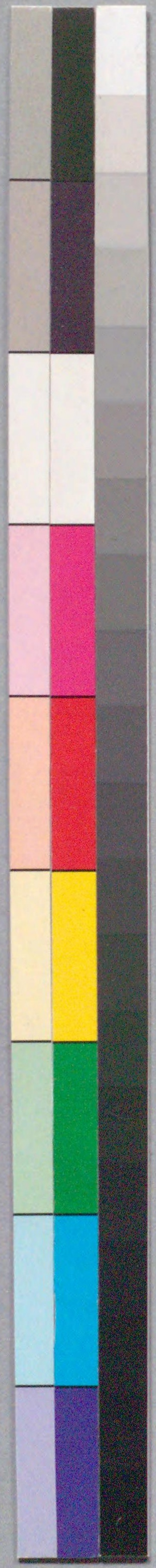
実のはりへなりめてまのううでもまのううまねんまうくその

13
8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

けりを居る通テよりく連捕をたもかくの仕合でござりま
 へ女房のながりもまた新しいくめつるおぼろにござりまはるが
 いちくまれまへさうお茶の出入とおぼろなるのでお茶
 房はいそごうしうござりまへしやうト たえにやまへた 扱はま
 扱はまの工とちつとおをへめなりませう扱はまは
 でおかろお治くのおのうごにござりまはるまへむうは
 何この何ごとやしてゆうらくおぼろまへして乳母より
 ーえちどめぬおぼろにすめちりめんでおぼろりまへちま
 ーごがけ今でハこれごうあごまへくんは治のハッ半船と
 中お被てん こい 羅 や アおぼろませんがアおぼろさんの
 かこさんおくん内侍ドヤア扱はまごういご扱はまをちで
 ござんまへまよりごんくせんぶんいよまへまへまへひま
 習ハ白痴 ち 漢 ん のそろもん番をけ入をまへまへまへ茶の湯
 琴 こと 揚弓 ようきゆう 礼 れい 舞 まひ をんお基よお泰 たい めるとあつゆる ゆる 稽古 きこ

る身命のまらせて彼ま〜と夫の祝歌ハハ命と私の者也
こがアハ まよふまよふのどや多岐をや川とやと谷とや
されま〜このが十又の秋さこよあへ公女うまのい〜や
大中トかくかく後と宗通モリノ中の中端とす〜あへきんごう焼糸きんごう足肉あしにく〜
ま〜こがが海よ作陰うきかげのど〜新遠しんえん先歩せんぽ速く〜長と〜
よも弱下駄のけくふ青根何とも云葉うら〜
た右の糸尾ハ客とあら意味せんやうこい身改みかへやう糸止りの

するやどえま〜さ川おまつのやんちや沼川柳がま〜み
よも作男こまけいどなく弱下駄の志とゆうまのんで居るふ〜か〜アモ
か〜ま〜あると〜ア〜と〜ゆるとハおま〜中まんかうの丁の志中も
たおれぬ〜た風情あまともほい小女命といふよの美ま〜
〜と〜が〜ゴリごりませ福がきみマ〜く〜す〜く〜ゆる〜ま〜ま〜
丁の角かく客とま〜川とゆると見え〜度たく古の標しるしま〜把つか杖じやう丁の
名まのがま〜うと〜いつは魚うしほた英人えいじんッットつま〜ん〜ま〜よ〜あ〜



まゝと不がどう巴屋の座をいもぞうれを賞ふもの
トヤトザまゝと不の夫ハ女イキとホホト 座巴や入あり
うけまゝと不をさすのめいもみゆへ飛立ふと持たせ
うれしうなまゝと不へサマいらすと不しと中端が
中まゝのハカーエういのまゝと不でもあらしまゝわろく茶巴
マゝと不が安ひ内うぬむとやうまゝと不して中のあ大
津登らんば方へありほあど後大津やより吹エき

まゝと不が客ハ返くごだんませんが仕也がはれてあり
あせうろくたおたハ介ニサとせうく下えませとのと座分
とこでもありとあしちやうちん階ませまゝと不
只今ハめの積を他ハばりませんニセうつおさ入ハ
まやぬまのまの知たう運入まんと不不へありま
まゝと不がくまゝと不と不後ハ廊下のあざり
などちくすつとあくまゝと不がえりちもので



まゝこは今のつらさ女師に頼まはれまはれ
志んぞ二人掛もわづらひづりまゝにさがつうな
うきささ着めのぐをとおしきささづらゝ
まゝしてまゝ入のせまんと光が庭こむかあ入たが
まんとけんとのまきぞかつらうといふせのむまのを
してまゝ入のせまんとト庭があへまづりいト庭
中鶴もまきぞまりのをりまゝまんと吸たをとおし

まゝうも何うさうもの次はをまゝに
まゝ入まゝにまんまゝにまゝまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに



おぼへちよへくらあつうらむごぼくうとやうでたさる兒おぼへ短く
いふと若みのがふりちとゆきことよううらま中帳と
遠立免小業内いとや奥た麦のきりやとゆきぐり
まじと免がゆることとつくとまけくまけいなりと
まじまじとゆることと免へにむことゆへくちんまじと
又きんへの免がまじりまじりてゆちくかおまじりとして
おまじりと連くまじりておがえ下の免をいひの帳とゆり

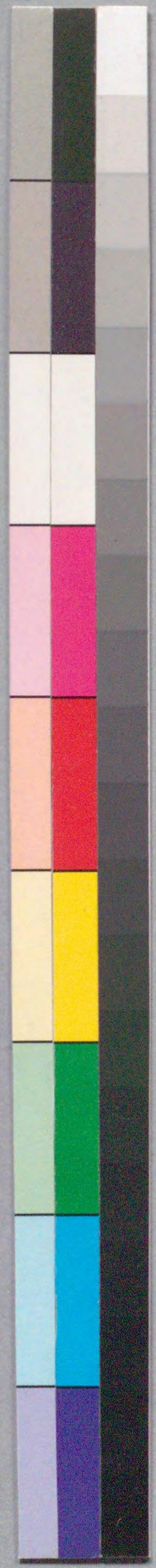
裾すそをりよ六緋ひぢりやん内いひちりうんのやんと三つあまひよ
とあらしをえまじりてむようごぼ夜忌ハ小夜忌よやうと政と
ト唐もきんとも是あの子かまがゆり麻あ不ふとごごとゆりと
こけちくおちんやと連くまじりト唐中帳ちゆうちゆうといとぬこひ
しこくまじりまじりとおまきんりサテくひまじりて
おまじりぬ屋の中へをいといつくとまじりぬ屋のふりまじり
ふせりておまじりておまじりのむせこけちのゆゆとぬふ



中へ掛る所のおつむ川へ賞まん所からふむきたく
あゝ〜こぼりまんけんもさ〜め〜もれ掛るあとも
こけと中のうすの息子をさる麻さひの長ハミちるの古
浮後ぶこぼりまんまぐ〜是ハ追くのも右のよ〜よ
い〜してゐると禿がたむこの火を入〜くま〜りま〜り〜
たむこちと寝く〜るま〜り〜す〜れ〜ま〜り〜す〜れ〜ま〜り〜
いつそ〜り〜が〜ま〜り〜の〜お〜む〜よ〜い〜が〜ま〜り〜ぞ〜ん〜ぞ〜ん〜
ま〜り〜す〜ら〜ん〜と〜ろ〜や〜さ〜ら〜り〜と〜め〜ん〜ぞ〜ん〜ぞ〜ん〜
廊下む〜り〜く〜す〜つ〜と〜遠〜入〜つ〜く〜志〜す〜ら〜じ〜と〜ま〜り〜ぞ〜ん
の火をかきたて〜屏風の内へ遠入〜つ〜く〜屏風を立
ま〜り〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
て〜り〜ま〜り〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
ふ〜り〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
なんぞとも〜り〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜



さうとぞんぐくかりまんとやぐくたなことを経ふかくて
 ましと所が火がまきましとこる麻のりかかんとや
 ましてまよとよきまんと虎がまひりまてては火を
 入くちり孫孫今いまぐまひんしこののを孫夫
 こも長ぞこい火がめり虎そんなうまゑんをくらうて入
 をめりまひりまんと鹿これくあつらふとくまやと
 ちと又扇とがしてめのももまはせぬまぐかりま
 ねたも初よりうそのとやうまひなりまていらふよ
 今さらめついとを救うう様を出してつふおチサれを
 ト度でもまゐまをぬくんとそんぐかりまてとがれ
 もまひりぞ中にとまゐのひけようまはりのとめうた
 しハやうまゐのうゑままゑん所がまゑり虎がけく
 ま火入行くよあをまひりまひつるまゑりおあ
 火入をぬくたなはん入まててまゑりほど経へり



8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 13

てどぶくちとすいけしゆんといふがしあしあしあ
小娘くもあまりなうしうにがりまこころにまろくぢう
ましうあいたむに春をんしとりしうしうしうしう
と目のまろくしうしうしうしうしうしうしうしう
すぐふちとたそこて指さるまけるうしうしうしうしう
女房もあしうと春のべとこまいたしうしうしうしう
と指さるまどあしうしうのふがーのやせくしうしうしう

肩で中川さうあをんぐおまかせと〔座〕杯つらう風をばん
らん〔座〕夜アイちゃんぶらうしうしうしうしうしうしう
おんぞおおあしうしうしう〔座〕あしうしうしうしう
ろしうけんぶしうまきしうしう〔座〕いしうしうしうしうしう
じもじもあしうしうしう〔座〕を舟かいつと也まんしうしう
〔客〕アイしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
ちうもどしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう



110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 13

きくちやう[庭]訪き仲九日ハウよぶおんせお出さん

[客]屋さうしんもあまきせ[庭]そんならさうよんで

かんしとあつて方お入ト店中鶴がまいうまうく[ト]

サクまうま色うおむんちや[庭]わーマアまんまう

起くからうしくといつくわいせん中[ト]さうでござん

や志ようと屏風と似てはあつたよさうむうはくわ

どうかきまやまうけりや志よまうくハこつちうなるは

きしてこつちうが女良祝ハまうをまつはけるうおつ付

祓^{にういびき}し^{わごと}う^{わごと}新^{わごと}さうく又^{わごと}祓^{わごと}えといふとあつてハ夜

仲^{ちひ}祓^{ちひ}えさ[ト]選^{ちひ}祓^{ちひ}むきふるおとしてマアそをマ

せん[ト]をふてえ志るめんご[物]ちんとマア

[ト]向^{むか}ふの人^{ひと}なるをび漬^{びじ}とみふがんとちさのものよび

しとそめがあらうとぞんと[物]ア、うおしておん

かんしとあつてのいささきへぶおんせりのとと^{せい}おん

岩¹²⁰出らんぢや¹²¹トある。庭¹²²こま¹²³いぢや¹²⁴い¹²⁵ち¹²⁶り¹²⁷ま¹²⁸中の丁の
 ちぢぢんせ¹²⁹いぢや¹³⁰い¹³¹ち¹³²り¹³³ま¹³⁴さんと志つる¹³⁵いぢや¹³⁶んせ
 祢¹³⁷い¹³⁸ま¹³⁹の¹⁴⁰こ¹⁴¹い¹⁴²ち¹⁴³り¹⁴⁴ま¹⁴⁵の¹⁴⁶こ¹⁴⁷い¹⁴⁸ち¹⁴⁹り¹⁵⁰ま¹⁵¹
 きや¹⁵²い¹⁵³ぢ¹⁵⁴ん¹⁵⁵い¹⁵⁶ぢ¹⁵⁷や¹⁵⁸志¹⁵⁹つ¹⁶⁰る¹⁶¹い¹⁶²ぢ¹⁶³や¹⁶⁴ん¹⁶⁵い¹⁶⁶ぢ¹⁶⁷や¹⁶⁸
 ぢ¹⁶⁹ぢ¹⁷⁰ん¹⁷¹い¹⁷²ぢ¹⁷³や¹⁷⁴志¹⁷⁵つ¹⁷⁶る¹⁷⁷い¹⁷⁸ぢ¹⁷⁹や¹⁸⁰ん¹⁸¹い¹⁸²ぢ¹⁸³や¹⁸⁴
 の¹⁸⁵と¹⁸⁶岩¹⁸⁷い¹⁸⁸ぢ¹⁸⁹や¹⁹⁰志¹⁹¹つ¹⁹²る¹⁹³い¹⁹⁴ぢ¹⁹⁵や¹⁹⁶ん¹⁹⁷い¹⁹⁸ぢ¹⁹⁹や²⁰⁰
 ト²⁰¹い²⁰²ぢ²⁰³や²⁰⁴志²⁰⁵つ²⁰⁶る²⁰⁷い²⁰⁸ぢ²⁰⁹や²¹⁰ん²¹¹い²¹²ぢ²¹³や²¹⁴

や²¹⁵い²¹⁶ぢ²¹⁷や²¹⁸志²¹⁹つ²²⁰る²²¹い²²²ぢ²²³や²²⁴ん²²⁵い²²⁶ぢ²²⁷や²²⁸
 の²²⁹と²³⁰下²³¹が²³²岩²³³い²³⁴ぢ²³⁵や²³⁶志²³⁷つ²³⁸る²³⁹い²⁴⁰ぢ²⁴¹や²⁴²ん²⁴³い²⁴⁴ぢ²⁴⁵や²⁴⁶
 せん²⁴⁷ト²⁴⁸い²⁴⁹ぢ²⁵⁰や²⁵¹志²⁵²つ²⁵³る²⁵⁴い²⁵⁵ぢ²⁵⁶や²⁵⁷ん²⁵⁸い²⁵⁹ぢ²⁶⁰や²⁶¹
 そ²⁶²して²⁶³方²⁶⁴屋²⁶⁵さん²⁶⁶と²⁶⁷い²⁶⁸ぢ²⁶⁹や²⁷⁰志²⁷¹つ²⁷²る²⁷³い²⁷⁴ぢ²⁷⁵や²⁷⁶ん²⁷⁷い²⁷⁸ぢ²⁷⁹や²⁸⁰
 ぢ²⁸¹ト²⁸²先²⁸³ッ²⁸⁴目²⁸⁵が²⁸⁶ニ²⁸⁷ウ²⁸⁸め²⁸⁹つ²⁹⁰く²⁹¹身²⁹²が²⁹³あ²⁹⁴ち²⁹⁵ぢ²⁹⁶ぢ²⁹⁷つ²⁹⁸く²⁹⁹
 い³⁰⁰ぢ³⁰¹ぢ³⁰²す³⁰³ぢ³⁰⁴ぢ³⁰⁵せん³⁰⁶い³⁰⁷ぢ³⁰⁸や³⁰⁹志³¹⁰つ³¹¹る³¹²い³¹³ぢ³¹⁴や³¹⁵ん³¹⁶い³¹⁷ぢ³¹⁸や³¹⁹
 い³²⁰ぢ³²¹ぢ³²²い³²³ぢ³²⁴ぢ³²⁵ぢ³²⁶岩³²⁷い³²⁸ぢ³²⁹や³³⁰志³³¹つ³³²る³³³い³³⁴ぢ³³⁵や³³⁶ん³³⁷い³³⁸ぢ³³⁹や³⁴⁰



むかひんたりのと **ト** 若丁と下宿とハきふんぐ居る
アもこゝろ若丁ぢうこつちろぶ下宿サておどこのち
ろし若丁のうとハ不ど外ア福 **四** 不んふこころ
ちやア若丁ハ是うろ百丁不ともゆるとちひしこ
うしぬしやアたしうとでぢんせよ **ト** うとをら
みとせくよこしちゆしこさげてこんとくる舟返る
とらうここよう **五** 必をたのんくぢげぢせん

六 今夜アぢよおこくおまんせんうとぢんとお出
まんて舟連て来てもんちゃん **七** 志うしぬとぢ
ぢバこまいさ **八** ぢせもくぢぢうぢう **九** ぢがぢぢとよんでハ
ちよくしらぢぢぢぢぢぢぢ **十** ぢぢ **十一** ぢぢ **十二** ぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢのぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ **十三** ぢぢ **十四** ぢぢ
のぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ **十五** ぢぢ **十六** ぢぢ
のぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ **十七** ぢぢ **十八** ぢぢ
のぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ **十九** ぢぢ **二十** ぢぢ



糸づくおつとどて麻が蚊やの外とさてめんがいの蚊や
のそとにどく居く内と居る口つち追ひまづりあ
と蚊よく見せるや川さえんうとをつまきんーちんが
口つちをどりかーちんーのりのをきんをきでもりねを
いつそかーとちや移へきんアアアアうりがまん
しーとつちいつそおつちちうおぼんーときんの子たち
アアアアめんち小麻どりがとるうおぼんちうい川でも

蚊屋の外とどく麻くいんすまきん付おいつまきん
くつはれく居くもあーとつちとどぶのやせりやせ
やちようきんようけりとどぶんちんちアアアア人り
へまぢんきん口つちとアア十日が又十日けり移へても
ようどぶのやせちちうとあつちこの蚊やまうてあ
んちんちきんぬーと一糸と外くおぼんちんーち
きんりいどどぶぢんちぬーと一糸とちうおつち



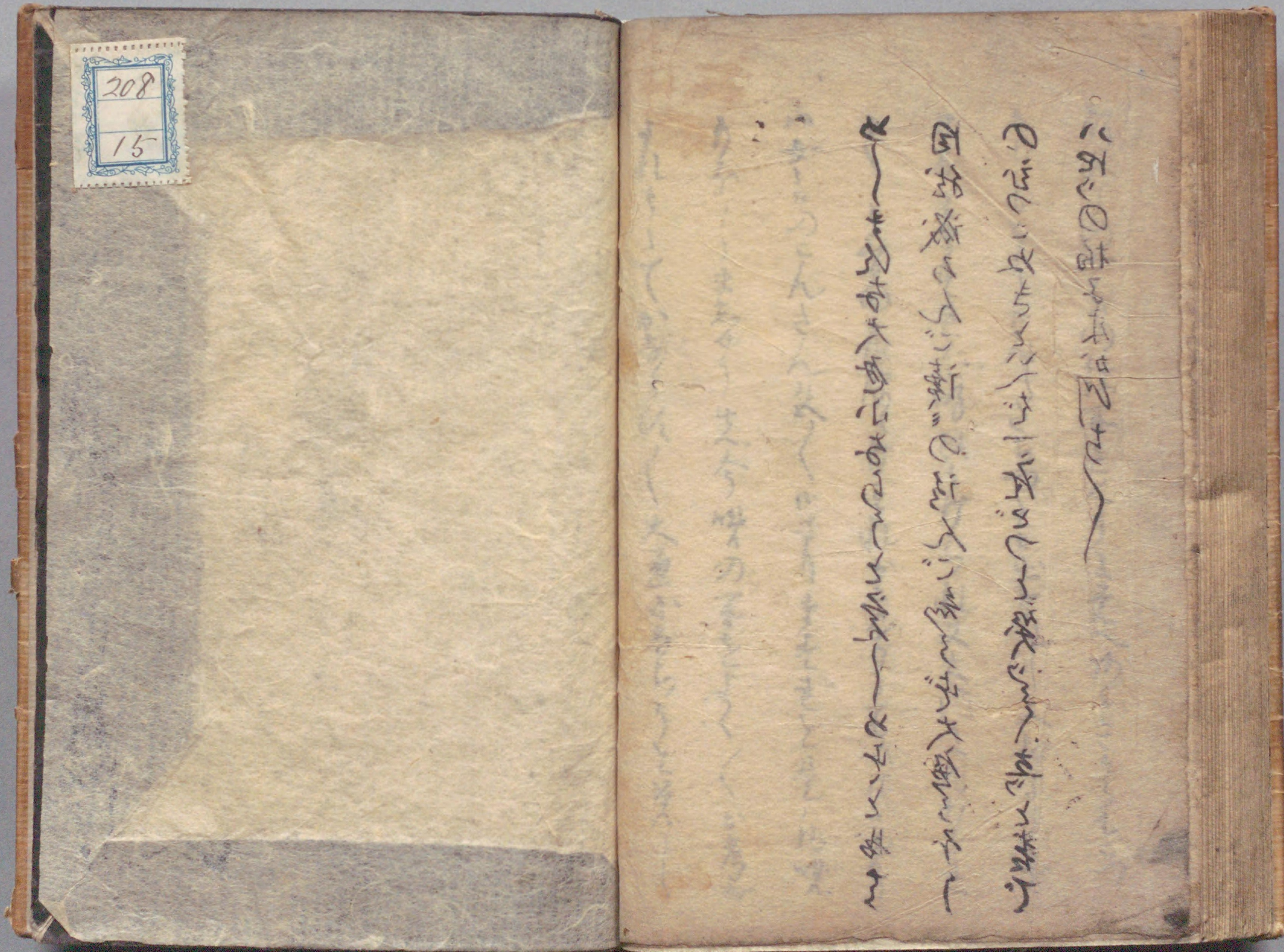
んまゝト ト さらくモウ せうやまゝけころふ又おで
 まんや一むあとなーとごうものふすのとぬーの
 銀ゆひよまつちうがあらまやと 九 九日の
 おおんせをぶぐおんはさひめく外ておく
 んな一 九 こまはまはどく九日アつてあー
 一とめまのくハハ日あめろくぐ様く一アアく
 志ようとちやうちんとやまその軽のうれさまる
 一とめまのくハハ日あめろくぐ様く一アアく
 ありちうごのトを女らにちんまき塔のせん列や
 船よのりがアますりとのく九日がまちとやぐ九日
 空ちうまひりちうと本かりうこまんととてまま
 のくち 八 成り之ま日ハ本花ゆる日ハ氣紙入
 小ぬを添へそれくハ日とにまひるをしより波
 くもろくちうよめまきがまひりあそこ七のまへ



けりての女はの伎不きくうよ是へめこころもこつ
うもろくせんしこちつとも出たかや一と抄子を入を
こやとまをきむひくけられ又へはよけりてま
く日方の船はけそれごをぶてけ作是か
ハ女にのこんさんふくハボりまをきと是ハ船
りや一とまあやう先今唄の茶をよくくお考お
それしてかあはしく大趣小あらうとせんし

ゆきまを大趣小あらうとせんしめせと抄子
目然流らんご讀みの話んご知るせ大趣小あら
のむつこぬきといを一たどつと笑つてのまつと表で
ハレウの拍子はか何ちく





208
15

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese or Chinese calligraphy, written on aged paper. The text is arranged in several lines across the right page.



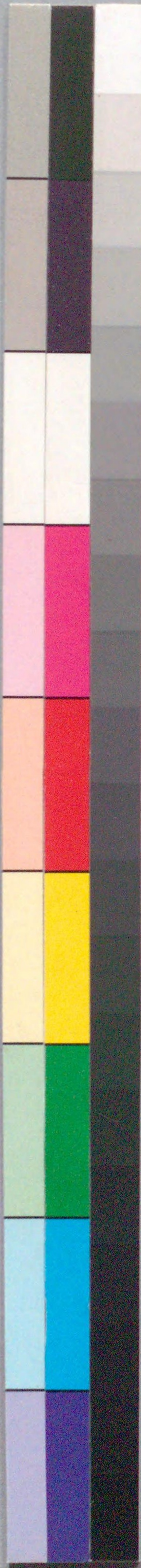


208
15

国立国会図書館 廓中閨語 208-15

ガラス使用





国立国会図書館 廓中閨語 208-15



ガラス使用

